

日本の歌における語用論と活喩の用法分析

エリサ

0542029

マラナターキリスト教大学

文学部日本語学科

バンドン

2009

序論

歌はミュージシャンの信念、考え、望みを他の人に伝えるために使うのである。ミュージシャンはイメージーションと意味をより深くより広くなるように歌の中に活喩を使うのである。

中村によると、活喩は次ようである：

活喩はだいたい英語の **personification** にあたり「擬人法」とも呼ばれるように、無生物を生命のあるものとして扱う喩法で、特に、人間以外のものを人格化し、人間になぞらえて表現する場合が多い。(Nakamura 「Hiyu Hyogen Jiten」 1980:42)

歌の意味はそれらに含まれた語と文を見るだけでは分からないので歌の全文作られた背景を見なければならないのである。そのため、本研究では語用論アプローチを使うことにする。語用論はテキストの全体を研究している、その中で話し手の意図と聞き手の解釈もある。

小泉によると、語用論は次のようである：

語用論は語の用法を調査した、検討したりする部門ではない。言語伝達において、発話はある場面においてなされる。発話として文はそれが用いられる環境の中で初めて適切な意味をもつことになる。(Koizumi 「Gengogaku Nyumon」 1993:281)

ひとつの歌からいくつか前提と含意を引き出すことができる。前提と含意を引き出すことによって聞き手と作曲者の歌の内容に対する見方が同じようになる。

寺村によると、前提は次のようである：

「前提」という概念の明確な定義が必要だということから論を始めていることから分かるように、この用語が人によって違った意味で使われやすいこと、そしてそれにもかかわら

ず、ある種の意味を特徴づけるのに便利で魅力的あることを示唆してる。（Teramura 「Genggogaku Nihonggo Kyoikuhen」 1993:49-50）

小泉によると、含意は次のようである：

「含意」を一般的な談話成立の条件と、特定の話や文法形式が本来的に持っている表現機能とに分けて意味論上の定式とすること提案している。（Koizumi Tamotsu 「Genggogaku Nyumon」 1993:322）

本論

始めにラルクアンシエルの「Blurry Eyes」という歌の一行を取り出して分析してみる。

A: めぐり来る時に約束を奪われそう

上の「時」は抽象名詞であるが、それが人間のように振る舞うことができるように描かれているのである。

上記の文の前提は「約束がうばれそう」というもので、含意は作者の彼女と一緒にいた時の約束を忘れることである。

「Blurry Eyes」の全体の意味は作者がまた彼女と一緒にになりたいが、それができないということである。

次の例はラルクアンシエルの「Winter Fall」の歌からとってみる。

B: 駆け出す世界に心奪われて (WF, bait 4)

世界は人間以外のもので人間になぞらえて駆け出すことができるように描かれている。

上記の歌に含まれた、前提は作者が、「心を奪われて」という節にも強調されるように、恋に堕ちているのである。含意というは、時は経っても、彼女に対する心気持ちは永遠に変わらないということである。

結論

日本の歌の中には、活喩が多く用いられている。その目的は歌詞をより美しく、より深い意味をするためである。活喩は表面的な意味も表すほか、その中に含まれた意味をも表すのである。活喩を用いることで、日本の歌のイメージーションがより深く広くなるのである。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	iii
DAFTAR SINGKATAN.....	v
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian	8
1.4 Metodologi, Teknik Penelitian dan Sumber Data	8
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Pengertian Pragmatik.....	11
2.1.1 Presuposisi	14
2.1.2 Implikatur	18
2.2 Majas Personifikasi	20
2.3 Rangkuman Teori	26
BAB III ANALISIS PENGGUNAAN MAJAS PERSONIFIKASI DALAM LAGU JEPANG	
3.1 Perumpamaan pada Aktivitas Manusia.....	28
3.1.1 Aktivitas Gerakan Tangan Manusia.....	28
3.1.2 Aktivitas Gerakan Kaki Manusia.....	39

3.1.3	Aktivitas Gerakan Mata Manusia.....	42
3.1.4	Aktivitas Gerakan Mulut/ bibir Manusia.....	44
3.1.5	Aktivitas Gerakan Tangan dan Kaki Manusia	46
3.2	Perumpamaan pada Sifat dan Emosi Manusia.....	48
3.3	Rangkuman Analisis	52
BAB IV KESIMPULAN		54
DAFTAR PUSTAKA.....		56
LAMPIRAN I : LIRIK LAGU L'Arc~En~Ciel.....		vi
LAMPIRAN II : KLASIFIKASI DATA.....		xxxii
SINOPSIS.....		xxxv
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....		xxxvi